

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

72

赤や黄、白、ピンク、橙の凜として咲いているチューリップの花は、季節に彩りを添える。草を取り除き、球根を植え、肥料をやる。やがて生き生きした薄緑の葉に抱かれるように小さなつぼみが顔を見せる。美しくかわい。朝早く足を運びたくなる。

陸前高田市横田町の気

仙川のほとりにある太田河川敷。地域の人たちは「いい公園ができたね」と喜んでい。その中心部に石を円形に並べた手作りの花壇がある。その主役がチューリップである。

私は、川砂利を採石して砂利にする水沢にある

リレー
エッセイ

建設会社に勤めていた。昭和四十八年七月三十日、いつものようにプラントの事務をしていたが、その日は人手が足りなく工場でベルトコンベヤーの掃除をしていた。一瞬の出来事だった。左腕がベルトコンベヤーに引き込まれ、左腕はもげ落ちそうになってしまった。

の時に会社を辞めた。自宅に戻り、酒、たばこ、米を販売していた家の「普豊商店」を引き継いだ。療養を兼ねた店番の合間に家の前の気仙川に散歩に出かけた。そこは小さかった頃よく川遊びをし、小学校や中学校

の時にはよく写生をした場所だった。しかし、思い出の場所にはあまりにも無惨であつた。残材や自転車、テレビ、ゴミなどが捨てられ、木が生い茂り敷になっていた。事故で失いかけた左腕と荒れ果てたふるさとの川。生きていく意味を自分に問うていた。いつからか散歩はゴミ片づけへと変わ

五本余りの桜が春には見事な花を咲かせる。このほかにもねむの木、檜、山ツツジ、シユロ、ナンテンなどがある。春にはチューリップだけでなく、菜の花が黄色いじゅうたんを思わせるように岸辺を覆う。秋はサルビアやコスモスが咲き誇る。「気仙川を清流に、アユの宝庫に」と願う。

人とは自分の命に限りあることを知ったとき、生きることを切実に願ひ、残された日々を大切に思う。私はかけがえのない風景の中に佇んで、生かされていることのありがたさを感じる。池まめ川のと。

【執筆プロファイ】昭和十二年生まれ。陸前高田市横田町在住。モットーは「どこへ行ってもきれいにすること」。

「風景」に生かされて

陸前高田市横田町 金野 庄平

の建設業者さんから土を分けてもらい敷きならすと、面白いように緑色に変わっていった。元氣よく伸びたあとは草刈りをする。

健康のためにと散歩を始めてから二十九年が経つ。河川敷には石で円形に縁取りされた直径三層ほどの花壇が十個並ぶ。土手沿いには吉野桜、河内桜、しだれ桜など六十

平成十一年七月四日大水で河川が削られた。お父さんに悪いと思ったのか、洪水は花壇の手前で止まってくれたね」と妻がいう。「みんなで河川をきれいにしましょ」と白い板に黒ペンキで環境美化を訴える看板が立っているが、これは妻が書いてくれたものだ。

公園の手入れをしているときに鮎釣りに来た人

流れに自然に恵まれた豊かな森の存在、気仙川の上流にドッシリと構える五葉山を思い浮かべた。美しくきれいな花は、今自分が生き生きと生かされているありがたさの証でもある。



太田河川敷の公園にて。左から筆者、妻、妻の両親